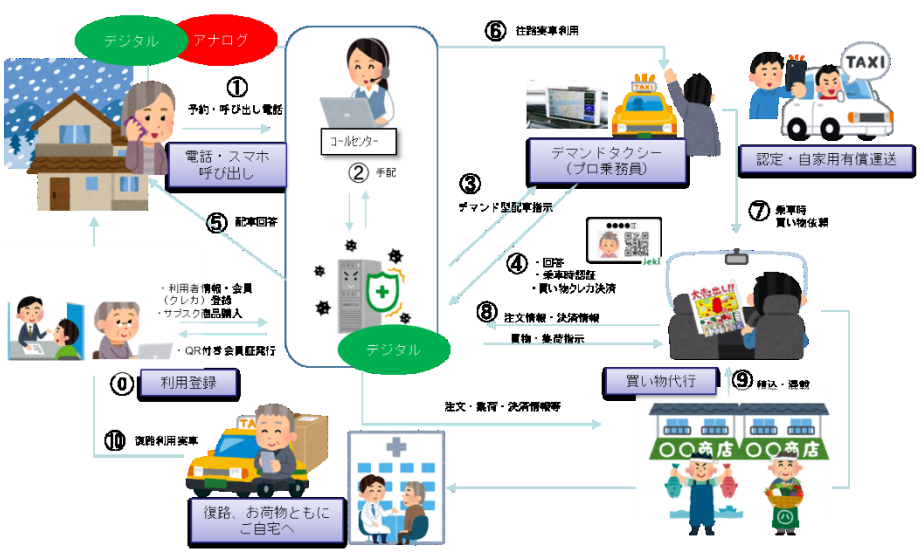
高齢者＜過疎＞に優しい共生・支援型　芽室ＭａａＳ事業

国土交通省

高齢化が進む農業地域居住者の市街地への移動と買物を支援する為、新たなサブスクリプション型乗合デマンドタクシーを導入するとともに、商業従事者との連携を図る。

協議会の構成員	【幹事】芽室町、NPO法人上美生、㈱ジェイアール東日本企画、株式会社こばとハイヤー、芽室町商工会、㈱電脳交通、芽室町農業協同組合、芽室消費者協会、芽室町市街地町内会連合会、芽室町民生委員児童委員協議会、育児ネットめむろ、国土交通省北海道運輸支局、十勝総合振興局	
地域課題	● 農村地区の過疎、高齢化 ● 域内学生（高校生）の通学 ● 公共交通（路線バス、鉄道）の不足 ● タクシー乗務員の成り手、担い手不足	
事業概要	期間	2022年１月11日～２月28日
	エリア	芽室町上美生地区
	MaaSシステム	WEBサービスと電話によるデマンド予約、買い物支援サービス注文機能、及び、タクシー車内での買物発注機能を独自に開発、提供
	交通サービス	● 乗合型オンデマンド交通の運行 ● 上記予約・決済機能の提供（高齢者向けに電話によるオペレーションコールセンターを構築） ● サブスクリプション型の運賃形態でのサービス提供
	交通以外のサービス	● 乗合型オンデマンド交通の運行 ● 上記予約・決済機能の提供（高齢者向けに電話によるオペレーションコールセンターを構築） ● サブスクリプション型の運賃形態でのサービス提供
検証内容	● 公共交通空白地における公共交通サービスの実現に向けた需要及びニーズの把握 ● タクシー事業者と自家用有償旅客運送との協働による交通サービス提供に向けた検証	

取組イメージ



検証結果

- 降雪期は農閑期で、同居家族の協力が得られる傾向があった。利用人数は少なかったが、サービスの満足度は82%は高かった。また、利用者以外の地域住民も将来の移動手段に対して不安を感じており、同様のサービスの必要性は高いと認識されている。
- 買物や通院以外にも、レジャー（市街地でのランチ）のための利用も見られた。他の交通手段との連携やおすすめルートの例示を求める声もあり、多様な使い方の提案が必要。
- タクシー事業者と自家用有償旅客運送が同一の運行仕様の運行分担可能なことが分かった。ただし、運転手もシステムに不慣れなため、使いやすいシステムへの改善が必要。

今後の方向性

- 非降雪期（農繁期）の実証による需要の把握
- 追加実証を通じた、利用慣れ（定着）による利用増を図る。
- 通年事業化に向けた汎用モデルの構築
- 新たな自家用有償旅客運送の担い手（地域団体や商業従事者等）の開拓や、必要な機能、サービスを模索し、協働による域内消費の拡大ムーブメント化を目指す。